

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ProgrammingDay五日市				公表日	令和7年2月1日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100.0%		パーティションを設けて区切りをつけていること 部屋の見通しが良く、空間を広く使えるよう工夫された配置になっている。 利用者が座れるだけのイスの数を用意している。 児童さんの特性に合わせて席を決めたり、職員同士の連携などを相談して配置を決めています。 児童が多い日は職員皆で一日の席の確認やパソコンの確認をすることが出来ている。パソコンがかぶっても大丈夫なようにオフィスソフトをみんなが使わないようにしとけない	オフィスソフトは十分に用意している。足りない場合は職員パソコンを利用するなどの工夫が出来る。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	50.0%	50.0%	負担がかかりすぎないか相談しながら利用者を決めている。ただ人員がお休みになる場合が少々負担が大きい場合がある。 主に個別対応をしているため、こどもの状態に合わせた対応が可能である。 キャンセル待ち希望が多数いるが、一日の利用定員がある為、職員の配置数が整っていても案内が出来ないことがある。 曜日によっては職員数が少なく、1on1で対応することができない場合がある。職員間でフォローしあって、穴ができないようにしている。 利用者が集中した時や職員の欠員が重なった時などに人手不足で対応職員の負担が大きい点は改善の必要性を感じています。 1人の職員が2人,3人見ることがあるので...	職員の欠員が重なる場合には余裕がない。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	87.5%	12.5%	エレベーターと階段が設置されており、密室が苦手な場合は階段、通常はエレベーターを使用してもらっている。 物の位置を決めており設備の配置はこどもが理解しやすく覚えられるよう工夫している。 情報伝達にはICTを利用しており、特性に応じて視覚的空間的にも工夫することが可能である。 集団が苦手な児童に対しては個室で療育ができるようになっている。ビルの構造上バリアフリー化は難しいですが、職員が席までの誘導を行うなど対応している。 エレベーターがあり、掲示物は入り口に見える形で掲示している		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100.0%		毎週土曜日に清掃時間を設け全体で掃除を行っている。パソコンの使用後に清掃などを行っていないので清掃の習慣をつけるとより清潔に過ごせる。 間仕切りを活用し、活動に合わせたスペースの使い方が可能。 疲れが出やすい児童に対しては、ハンモックに誘導することもできる。 職員それぞれが清潔維持を意識し努めています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100.0%		周囲の目がある場合の発言のしづらさのある児童や、音に敏感な児童などの場合は相談室を使った利用をしてもらっている。 音、周りの様子が気になる児童には個室を使って療育をしている。 緘黙の児童さんの中には個室だと発語できるということもあるので、個室対応希望の利用者には個室で対応しています。		
	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100.0%		普段の報告メールなどは対応した児童の様子を振りかえる機会にもなっており、年末年始の目標設定も自分の長期的な目標と達成具合を見直す機会となった。 週に1回、ケース検討会議を行っており、それぞれの意見を出し合っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100.0%		毎年保護者の事業所評価をアンケートしておりその情報を車内で共有している 年末にアンケートの一斉送信をしており、結果を職員内で共有する場を設けている。		

業務改善	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100.0%		毎週事業所シユーマーティングで現状の報告などを発する機会がある。 事業所内ミーティング・全事業所での定例会議を週に1度は開催し、支援力の向上や職員の意見の吸い上げ等を行っている。 事業所で週に1回ミーティングを行っている。その際に意見が出るとそのことに対して話し合うことがある。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0%	100%	法人内の別事業（就労継続支援A型事業）として受審しており評価結果を事業所に共有され、それをもとに業務改善に繋げている。	事業として受審義務はないもの、機会があれば受審し業務改善に繋げていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100.0%		研修があれば共有されており、また内容によっては金銭的サポートがもらえており学ぶ姿勢をサポートしてくれている。 講習や研修の告知が社内で共有されるので、気軽に参加することができる。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100.0%		モニタリングの前に一度事前モニタリングを行うことで、管理者とその児童に合った長期、短期目標を一緒に考える時間がある。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	87.5%	12.5%	モニタリングの場では主に保護者の意見を聞いて個別支援計画を作っているので児童の意見が反映されずらい。中学生など自立し始めている児童に対しては、メール案内の際に児童のモニタリング参加を歓迎する旨を書く改善が必要と思われる。 対応職員がこどもの聞き取り、管理者と事前モニタリングを行うことになっている。その後、保護者とのモニタリングをしそれぞれのニーズを確認し分析した後に新しい個別支援計画を作成している。 児童に対してはモニタリング前にニーズを聞き取りし、保護者はモニタリング中に聞き取りをしている。その後に個別支援計画に反映をする。	随時子どものニーズを把握すること、子ども同席のモニタリング実現に向け、その必要性を共有していく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100.0%		各担当者がこどもの支援の現状を報告のうえで、児童発達支援管理責任者が計画を考えており、作成前の方針確認や作成後のチェックを行うことで共通理解で出来ていると思う。 システムを利用して情報の共有をしている。 事業所内ミーティングを週に1回開催することで職員の意識や理解を確認する機会としている。 児童本人のニーズを活動に反映できるように支援している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100.0%		共有ファイルに保存しているので同じ事業所の職員が好きなタイミングで計画を確認できる。 システムを利用しているため、全員が確認できるように工夫している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100.0%		職員が前回対応時と違う場合は打ち合わせを行っているが前回と同じ職員が対応する場合は職員間の打ち合わせはない 必ずしも打ち合わせはしていないが、支援の振り返りはシステムやメールにて各自が確認し合えるようにしている。気付きは随時共有できるよう職員の関係構築を意識して週ミーティングを行っている。 支援終了後に毎回打ち合わせをすることは少ないので、気になったことの共有は毎回するより良い支援になりそうです。 必ず行っていないですが、情報共有や振り返りなどを行っています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	85.7%	14.3%		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	50.0%	50.0%	児童と相談して行っているためチームで考えてはいない。困った際の相談はある。 個別の対応が多い為、担当職員が主に立案をしているが、必要に応じてチームでの検討の機会を設けている。 担当職員だけではなく、関りがある職員の意見も反映している。	週1開催している事業所ミーティングなどの機会を利用して、チームでの協力体制を組めるよう相談しやすい環境を作っていく。

適切な支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	62.5%	37.5%	児童と活動内容をその都度確認し相談しているが、日々の活動は固定化されつつあるので変化が必要。 様々な活動のバリエーションを用意している。新しい活動は職員同士で共有が出来ている。 できるだけ固定化しないようにしているが、ルーティーンを崩したくない児童もいるので、その児童に合う療育ができるように日々精進している。 色々な課題を取り入れるように考慮しています。	職員それぞれが情報を取得し、情報共有することで活動の幅は広がると考えられる。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	62.5%	37.5%	多くはないがUNOやトランプを集団でやってコミュニケーションを取る場合もある。基本的には個別活動。 集団活動を進んで提案してはいないが、自然と集団となる場合もあり、その場合はそれに応じた計画を作成・支援している。 自由時間にほかの児童とのコミュニケーションの機会を多くとれるようにしたい。 複数の児童さんと職員で自由時間などに一緒にゲームやカードゲームをプレイしコミュニケーションの幅を広げる取り組みをしています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	37.5%	62.5%	どの児童をどの職員がみるか、またどこにフォローが必要かなど適時相談して、みんなが意見を出している。 個別の内容は担当職員が決定しているが、全体の動きや配置についてはチームで連携し協力体制がとれている。 不在の職員がいるときや、普段とは異なる児童の対応をするときには、漏れがないように打ち合わせを行うようにしている。 必ずではないですが場合によっては事前に打ち合わせをして連携を取って支援しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	25.0%	75.0%	職員が前回対応時と違う場合は打ち合わせを行っているが前回と同じ職員が対応する場合は職員間の打ち合わせはない 必ずしも打ち合わせはしていないが、支援の振り返りはシステムやメールにて各自が確認し合えるようにしている。気付きは随時共有できるよう職員の関係構築を意識して週ミーティングを行っている。 支援終了後に毎回打ち合わせをすることは少ないので、気になったことの共有は毎回するより良い支援になりそうです。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100.0%		毎日報告メールで記録を取りその内容を保護者連絡している。 それぞれの活動内容を記録し、その際のコミュニケーションをしっかりと取っている。 毎回児童毎に自分用の記録を取っています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100.0%		システムで前回モニタリング日時を確認することができ、また次のモニタリング日時が確認できること。 活動内容と短期目標の達成具合や変化などをしっかりと保護者にお伝えし、その児童の家・学校の様子や保護者のニーズを聞き取り、できるだけ反映できるようにしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	85.7%	14.3%		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100.0%		職員で違いは大きいと思われるが、活動内容を何択かにして提示して選んで貰う場合も多い。 課題を提案するときには選択式にするなど工夫をしている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100.0%		担当者が基本的に担当者会議に同席している。 担当の職員と管理者が出席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	75.0%	25.0%	モニタリングで利用者の関係機関の確認を適時行い、積極的に連携を取る必要がある。 必要に応じて関係各所に連携をお願いしている。 デイの利用を学校の出席日扱いにしている児童の場合、利用の様子をお話するなど学校と連絡を取っている。	
28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	62.5%	37.5%	児童によっては学校の様子を共有している場合もあるが数は多くなく、連携をしやすい体制作り必要。 送迎がない為、当てはまらない。 長期休みの前などには保護者に日程を聞き取りしている。		

関係機関や保護者との連携	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	50.0%	50.0%		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	50.0%	50.0%	前例がないが、今後そのような場合は情報を提供したいと考えている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイスや助言や研修を受ける機会を設けているか。	50.0%	50.0%	現在の支援内容について外部から助言を受けられる体制づくり 基幹に相談したり、支援センターでの研修等の情報を職員で共有、参加している。	研修情報は職員内で共有している。また研修に参加した職員からは伝達研修の機会を作っている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		100.0%		
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	37.5%	62.5%	研修や制度について分かりやすく知る場を設けてほしい。	開催があれば毎回参加し、事業所職員に報告している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100.0%		メールでの活動報告を採用しており、各活動や所感について細かく、丁寧にお伝えしていることから評判を頂いている。 活動の中で気になったことはメールもしくは口頭でお伝えをしている。	
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	62.5%	37.5%	研修に参加すればできるか定例会議でもそういった知識を学べる動画を閲覧するなどの機会を設けてもいいと思う。 家族支援プログラムを企画・実施している。 アンケートをとるなどして保護者のニーズを把握し次回の企画を考えている。 モニタリング時にお話しを聞く機会があるが、適切な声かけができないことがある。 参加していけるようにしたい。その場合の児童対応などもかんがえなければならぬなど考えなければならぬ	引き続き家族支援プログラムの企画、開催を検討し、周知について職員全体で協力していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100.0%		契約時には時間を十分とり、丁寧に説明をしている。また個別に質問がある場合には対応している。 契約時にお話しをしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100.0%		作成時には必ず双方に説明・確認して同意を得ている 保護者と児童のニーズを反映した計画を作るように意識している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100.0%		モニタリングの際に目標を提案して随時了解を行っていること。 新しい計画書を作成したときに、ご説明をして了承を得た上でサインを頂いている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	87.5%	12.5%		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	25.0%	75.0%	保護者企画を開催した際にグループワーク等のきっかけを作り保護者同士での交流を促した。保護者が交流を望んでいないという意見が多い。 ひだまりの情報交換会のチラシを掲載したことがあり、興味を持っていた保護者にもお渡ししていた時期もあるが、それ以降デイ側からのアプローチがなかったと思う。「チラシを掲載できますよ」等の声かけを積極的に行う必要がある。	保護者同士の交流を望んでいないというアンケート結果が出たが、家族支援プログラム開催の際には実際に交流してよかったとの感想があった。さまざまなニーズに対応できる様引き続き保護者への聞き取りを行っていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	87.5%	12.5%	苦情対応の体制は整備されていないが、相談しやすい環境は整っている。 苦情の内容を職員間で共有し、再発防止策を考えて実行している。	苦情対応の体制は整っており、重要事項説明書にも記載している。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	75.0%	25.0%	各事業所ごとにローテーションで通信を発行していること。 毎月広報誌を作成し全家庭へお配りしている。	月間広報誌に加え、今後はより効率よく保護者へ伝達できる環境(システム)を検討している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100.0%		使わなくなった個人情報分かるものはみんながシュレッダーにかけており情報が洩れなくなっている。 パソコン画面の表示などについても職員内で意識づけを行っている	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	87.5%	12.5%		
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	25.0%	75.0%	前例がない。	まずは職員が地域の行事に参加するよう心がける。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	75.0%	25.0%	防犯や事故防止、感染症対応マニュアルについては周知されていないので、周知が必要。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	75.0%	25.0%	定期的(半年に一度)に機会を作り確認している。 避難経路の確認や避難する際の持ち物を確認している。	引き続き職員間での訓練を実施していく。

非常時等の対応	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100.0%		児童対応で役立つ知識などを共有する姿勢を習慣化されること 体験・契約時に書式を使い確認している。てんかん発作についても随時保護者との情報連携をとっている 児童の共有情報として薬の有無や発作を把握している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	50.0%	50.0%	飲食を提供していないので当てはまらない デイ内で何かを食べることはないので、注意をしていないことが多い。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	87.5%	12.5%		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	75.0%	25.0%		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	87.5%	12.5%	書式を決め、作成した際は事業所内だけでなく、全事業所で共有して方策についても確認している ヒヤリハットが出たときには他事業所にも共有をしている。	引き続きヒヤリハットの作成と共有を行っていく。ヒヤリハットを再発防止に向けた良い機会とし職員全員で率先して作成していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100.0%		毎年全職員が対象となる研修を開催している 新人研修を受ける機会があり、対象ではない職員もZOOMにて参加することができる。	毎年研修を開催している。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	87.5%	12.5%	まずは自分の身の安全の確保が優先と共有している。	